

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ⑩

『二冊の小説』

教育委員会に勤務していると人間関係の難しさを感じるが多々あります。子どもどうし、子どもと教師、教師と保護者、お互いに人の心を理解し、時には譲り合い、時には打ち解けて関係を深めることが難しい時代となっています。人の心を察する力を養うことが必要だと思います。コミュニケーション能力とはそんな力なのかも分かりません。

久しぶりに小説が読みたくなり、六月は二冊の本を読みました。一冊目は「小学 61 年生」(朱川湊人 イースト) という本です。主人公は東京の私立大学に通う神田杉千代。幼友達と大学で再会し、子どもの頃から大好きだった怪獣の特撮映画の制作をめざします。かつての怪獣好き仲間たちと「特撮と怪獣が世界を救う。還暦すぎてもそう思う。永遠に小学生でもいいじゃないか」人がくだらないと思う夢に、人を動かすエネルギーがあるというメッセージを込めた少し不思議でペースス(しっとりとした哀愁)のある作品です。幼友達は有名な映画監督になっていきます。

もう一冊は「銃口 上下」(三浦綾子 小学館)。私が大学生となった 50 年前、一番よく読まれていた作家が三浦綾子氏でした。三年前、旭川にある三浦綾子文学館を訪ねた時に、三浦氏晩年の傑作として紹介されていたのがこの作品でした。本を購入したままになっていました。小学校の担任の先生に影響され、主人公の北森竜太は尋常小学校の教師となります。北海道の貧しい炭鉱の町で教師となった竜太は「生活綴り方」の授業を進めます。そんな竜太に厳しい言論統制の波がおそってきます。代用教員を務めた三浦綾子氏らしい、教師と子どものあり方を考えさせられる小説です。現代を生きる私たちにとって、神と人との関係、人と宗教とのかかわりについても深い洞察がなされています。教育問題に関心のある方、教職をめざす方には手にとってほしい小説です。

8月8日「歴史カードゲーム 津島信長ミニ大会」(津島市観光交流センター・てんのうびあ)で「戦国武将メモリアル」というお話をすることになりました。津島と関わりの深い、織田信長・豊臣秀吉・加藤清正について語るつもりです。また津島衆と呼ばれる服部小平太・平野長泰についても話したいと思っています。新聞などに取り上げられたハイストという歴史カードを活用した歴史カードのバトル大会と講座です。皆さんもふるって参加をお願いします。

令和8年7月1日

津島市教育委員会

教育長 浅井厚視

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ⑭

『博物館の二つの企画展』

以前にも書きましたが、私は清須市にある「あいち朝日遺跡ミュージアム」に定期的に通っています。企画展が替わるたびに見学に行きます。今回は「愛知の発掘調査 2025」を見てきました。尾張部（名古屋市）の弥生時代の住居（掘立柱建物）や墓（方形周溝墓）の様子、そこから出土した円窓付土器をはじめとした土器、三河部の前方後円墳とその石室の調査を知りました。今回の企画展は「一宮市萩原遺跡群」が6月21日まで展示されています。その中には、愛知県の発掘調査区で見つかった朝日銅鐸（清須市）と八王子銅鐸（一宮市）を見ることができ、銅鐸の音色と合わせて、弥生時代のワンターランドに入ります。出土状況がはっきり分かる珍しい銅鐸です。銅鐸が見つかった状況（逆さであったり、寝かせてあったり）の解説もありました。八王子銅鐸が見つかった日、私はその発掘現場、すぐ近くでトランシット（測量器）を立てていました。また銅鐸の取り上げをした時にはビデオカメラ係を務めました。東海地方の特色となっている紅殻を使った赤色の美しい土器（パレス土器）も一度見てほしいと思います。

もう一つは名古屋市の徳川美術館で行われている「豊臣兄弟！」の企画展です。今年のNHK大河ドラマに係る特別展で大変人気を集めています。信長・秀吉・家康の三英傑に加え、史上最高の補佐役（ナンバー2）豊臣秀長について展示が行われています。津島神社の楼門は秀吉が、南門は秀頼が寄進し、秀吉は尾張津島天王祭をこよなく愛し、大坂に移そうとしていたと言われています。そんな津島と深い関わりのある人たちの企画展です。三人の肖像画や書状、秀長愛用の茶入や兜を見てほしいと思います。調整型で人の話をよく聞いたと言われる秀長の人となりに関心をもって下さい。津島は信長・秀吉の家臣として活躍した津島衆がおり、賤ヶ岳の七本槍の加藤清正や平野長泰のように津島にエピソードを残す武将もいます。常設展では、徳川美術館には多くの合戦図屏風や刀、兜、鉄砲もあり、戦国時代の戦いの雰囲気味わうこともできます。自分の人生の中で徳川美術館の講堂で「郷土愛はふるさと検定から」という講演をしたことが大きな自慢となっています。美術館の講師専用入口から入れて頂きました。

この二つの企画展、博物館を5月・6月に訪ねていただきたいと思います。さらに全国にあるお城や城館を訪ね、兵どもの戦さのあとに関心をもっていただきたいと思います。私も御朱印に合わせ御城印も始めたところです。

令和8年5月1日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視